

次世代育成支援行動計画（後期計画）の評価と新計画の方向性（案）

**【評価基準】**

- ①評価指標による評価
- ◎：目標値を達成（3点）
  - ：目標を下回るが前回h交差を10ポイント以上上回る（2点）
  - △：前回調査を多少上回る程度（1点）
  - ▼：前回調査を下回る（0点）
- ②推進施策の進捗度
- A：前進している（3点）
  - B：以前と同じように継続実施（2点）
  - C：一部未実施の事業あり（1点）
- ③総合評価
- ①の平均点 + ②の平均点
- A：5.0点以上
  - B：2.1点～4.9点
  - C：2.0点以下

## 基本目標1 子どもの豊かな人間形成を支える環境づくり

<b>施策1</b>	<b>家庭や地域における子どもの人間形成</b>			
評価指標	○子育てをする環境についての現状 「親子・子ども同士の交流の場や自然の中での多様な体験の場が充実していると感じる」割合（％）			
	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
	就学前児童 51.2 就学児童 52.4	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 57.9 就学児童 52.7	△
推進施策		事業数	進捗状況	主な事業
①家庭や地域における教育力の向上		13	B	・ここにこサークル ・子育てサポーターの養成 ・幼児ふれあい教室 ・初めての絵本との出会い事業 ・地域いきいき子育て促進事業 など
②地域や自然の中での多様な体験活動の充実		9	B	・子育て支援地域活動事業 ・地域スポーツ推進事業 ・親子のふれあい、自然とのふれあい事業 など
総合評価	課題			
B (3.0点)	<p>評価指標では、就学前児童については目標値に達しなかったものの、ほぼ目標値に近い評価を得ており、各施策における個々の事業の拡大の成果と考えられますが、ニーズ調査結果ではここにこサークルなど市民に広く利用されていない事業もあるため、利用拡大に向けた取り組みが必要です。</p> <p>一方、就学児童については前回の調査時とほぼ同じ評価となっており、就学児童の地域での交流や多様な体験活動の場を充実させる必要があります。</p>			

<b>施策2</b>	<b>学校を通した子どもの人間形成</b>			
評価指標	○子育てをする環境についての現状 「子どもの教育環境が充実していると感じる」割合（％）			
	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
	就学前児童 48.1 就学児童 50.9	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 60.7 就学児童 58.9	就学前◎ 就学 △
推進施策		事業数	進捗状況	主な事業
①個性と創造性を育む学校教育の推進		7	A	・開かれた学校づくりの推進 ・ワクワク Work in とよはし ・新入学児童学級対応等支援事業 ・特色ある学校づくり推進事業 など
②教育体制の充実		8	A	・英会話のできる豊橋っ子の育成 ・適応指導教室（麦笛ひろば） ・外国人児童生徒相談コーナーの創設 ・小中学校不登校対策支援事業 など
総合評価	課題			
A (5.0点)	<p>個別な支援を必要とする児童生徒やタガログ語を言語とする児童生徒の増加など、社会の変化に伴って学校の教育環境も大きく変化してきており、こうした変化に対応していくための具体的な施策を早急に打ち出していくことが求められています。また、子どもたちの学びを深めるために、英語活動や学習支援体制の充実に取り組んできましたが、こうした取り組みの検証を通して改善策を検討していく必要があります。</p>			

<b>施策 3</b>	<b>子どもの主体的な活動の尊重</b>			
評価 指標	○子育てをする環境についての現状 「子どもが気軽に利用できる施設や場所が充実していると感じる」割合（％）			
	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
	就学前児童 49.3 就学児童 42.7	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 59.6 就学児童 49.0	就学前○ 就学 △
<b>推進施策</b>	<b>事業数</b>	<b>進捗状況</b>	<b>主な事業</b>	
①遊び場、施設等の充実	7	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども未来館の運営</li> <li>つどいの広場</li> <li>地域子育て支援センター事業</li> <li>交通児童館事業</li> <li>公園等の整備</li> <li>拠点的地区市民館リニューアル など</li> </ul>	
②子どもの年齢に応じた居場所づくり	4	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）</li> <li>放課後子ども教室運営事業</li> <li>赤ちゃん広場 など</li> </ul>	
③青少年活動への支援【新設】	4	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども未来館の運営参画</li> <li>高校生仕事体験プログラム</li> <li>青少年活動への支援</li> <li>若者の勤労意欲の醸成</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>課題</b>			
B (3.5点)	就学前児童については、評価指標では目標値に近い評価を得ていますが、ニーズ調査では南部・南陽・本郷・高師台区域などでは親子で交流する施設が少なく、今後の整備が課題となっています。就学児童については前回調査より6ポイント程度の伸びにとどまっており、ニーズ調査結果からも就学児童の放課後児童クラブなど、身近な居場所づくりの充実が課題です。			

<b>施策 4</b>	<b>次代の親としての子どもの人間形成</b>			
評価 指標	○子育てをする環境についての現状 「子どもが生命の大切さや性について正しい知識を学ぶ機会があると感じる」割合（％）			
	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
	就学前児童 14.9 就学児童 21.2	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 26.6 就学児童 30.9	就学前○ 就学 △
<b>推進施策</b>	<b>事業数</b>	<b>進捗状況</b>	<b>主な事業</b>	
①親となるための教育の充実	2	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤ちゃんふれあい体験</li> <li>中学生と幼児とのふれあい体験などの学習</li> </ul>	
②思春期保健対策の充実	6	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>性教育の実施（出前講座）</li> <li>性の仲間教育</li> <li>青少年育成事業</li> <li>思春期精神保健相談 など</li> </ul>	
<b>総合評価</b>	<b>課題</b>			
B (4.5点)	各事業とも順調に進捗していますが、評価指標は前回調査からの伸びはみられるものの、目標値まではまだかなりの開きがあります。多くの事業が学校で実施されている事業で子どもに対して働きかけていくものであり、保護者に対してのニーズ調査からの評価・検証は難しいところはありますが、今後も次代の親としての子どもの人間形成のために、生命の大切さや性について正しく学ぶ機会を継続して提供していく必要があります。			

<b>施策5</b>	<b>子どもの人権を尊重した環境づくり</b>			
評価指標	○子育てをする環境についての現状 「児童虐待の早期発見や防止等子どもの人権を守る体制が整っていると感じる」割合（％）			
	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
	就学前児童 20.3 就学児童 27.4	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 27.5 就学児童 26.9	就学前△ 就学 ▼
推進施策	事業数	進捗状況	主な事業	
①子どもの権利に関する啓発活動の充実	6	A	・子どもが主役の子ども会議の開催 ・人権啓発活動 ・人権に関する学習機会の提供 ・まちづくり出前講座 ・民生委員児童委員協議会の活動支援 など	
②児童虐待防止体制の充実	5	A	・児童相談 ・児童虐待防止に関するネットワークの推進 ・児童虐待防止に関する啓発活動の充実 など	
総合評価	課題			
B (3.5点)	子どもの権利・人権に関しては、ニーズ調査で「子どもの権利に関する国際的な条約があること」を知らない割合が約7割であったことから、現在の取組みを継続するとともに、市民に広く周知していく必要があります。また、児童虐待防止体制については、幼児の死亡事件を受けて、所在不明児童に関する市関係部署の情報共有の仕組みを構築し、地域の見守りの観点から民生・児童委員と主任児童委員による、こんにちは赤ちゃん訪問を始めましたが、評価指標は目標値を大きく下回り、特に就学児については前回を下回る結果となりました。今後も、より一層の関係機関との連携強化と児童虐待防止啓発活動に力を入れていく必要があります。			

## 基本目標2 子育て家庭を支える環境づくり

<b>施策1</b>	<b>全ての子育て家庭を支援するサービスの充実</b>				
評価指標	○保育サービスの利用状況についての現状 「希望した時期に保育サービスを利用することができた利用者」割合（％）	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標による評価
		就学前児童 78.4	就学前児童 85.0	就学前児童 72.2	▼
	○子育てをする環境についての現状 「保育所での多様な保育サービスが充実していると感じる」割合（％）	就学前児童 52.4 就学児童 46.0	就学前児童 60.0 就学児童 60.0	就学前児童 54.9 就学児童 52.0	△
	○子育てをする環境についての現状 「子育てについて相談できる窓口が充実していると感じる」割合（％）	就学前児童 53.8 就学児童 43.1	就学前児童 60.0 就学児童 50.0	就学前児童 44.3 就学児童 34.6	▼
○子育てをする環境についての現状 「子育て家庭への経済的援助が充実していると感じる」割合（％）	就学前児童 25.5 就学児童 30.6	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 33.8 就学児童 32.9	△	
推進施策	事業数	進捗状況	主な事業		
①多様な保育サービスの充実	14	B	・通常保育事業 ・延長保育事業 ・休日保育事業 ・一時保育事業 ・病児・病後児保育事業 ・ファミリー・サポート・センター事業 ・子育て短期支援事業 など		
②子育てに関する相談、情報提供の充実	16	A	・地域子育て支援センター事業 ・子育て支援の情報提供 ・子育て情報ハンドブックの発行 ・家庭児童相談事業 ・教育相談 ・青少年相談 など		
③子育て家庭への経済的援助が充実している	7	A	・児童手当 ・子ども医療費助成事業 ・保育料の軽減 ・私立幼稚園就園奨励費補助 ・就学援助 など		
総合評価	課題				
B (3.2点)	通常保育については「希望した時期に保育サービスを利用できた」と答えている割合は前回の調査結果を下回っています。今後保育ニーズが多様化する中、保育サービスをいかに確保していくかが課題です。また、子育てに関する相談、情報提供の充実については、ニーズ調査で「相談窓口が分からない」「子育ての情報提供が不十分」と答えている割合が50%以上を占めており、既存事業の周知の徹底や、より市民に分かりやすい相談窓口及び情報提供のあり方を今後も検討する必要があります。				

施策 2		安心して子育てできる環境づくり			
評価 指標	○子育てをする環境についての現状 「子どもが安心・安全に出かけられる環境が整っていると感じる」割合 (%)	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
		就学前児童 26.5 就学児童 29.1	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 41.8 就学児童 36.3	就学前○ 就学 △
	○子どもと外出する時に困ること についての現状 「子どもに係る事故や犯罪の被害にあわないか心配であると感じる」割合 (%)	H20年度調査	目標 (H26年度)	H25年度調査	※評価指標 による評価
		就学前児童 52.1 就学児童 66.3	就学前児童 40.0 就学児童 50.0	就学前児童 43.6 就学児童 56.8	就学前△ 就学 △
推進施策	事業数	進捗状況	主な事業		
①安全で、安心して生活 できる環境づくり	7	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室 ・ 防犯教室講座</li> <li>通学路等の安全の確保 ・ 交差点等安全カラー表示 など</li> </ul>		
②地域ぐるみで子ども を守る環境づくり	4	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全・安心まちづくり地域防犯事業</li> <li>安全・安心情報配信事業 など</li> </ul>		
③子どもと安心して出 かけられるまちの整備	3	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>人にやさしいまちづくり推進事業</li> <li>ユニバーサルデザイン事業</li> <li>赤ちゃんにやさしいまちづくり</li> </ul>		
④住宅対策の充実	2	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て世帯の優先入居 ・ 都心居住の促進</li> </ul>		
総合評価	課題				
B (4.0点)	<p>評価指標の「子どもが安心・安全に出かけられる環境が整っている」については、就学前児童において目標値には達しなかったものの前回調査を約15ポイント上回っています。また、ニーズ調査における子育てを取り巻く環境として困ることについて、段差などによるベビーカーや自転車での移動の困難さを上げる割合は大幅に減っており、これらの結果から、乳幼児を連れた家庭が外出しやすい環境が整ってきていると考えられます。一方、就学児に関してはいずれの指標も目標値には届いていないものの前回の調査を上回る結果が出ており、防犯や交通安全に対して継続して取り組んできた成果と考えられますが、交通安全や防犯に関しては依然として心配であると答える割合が高いため、今後も保護者の心配が軽減されるよう、継続的な取り組みが必要です。</p>				

施策 3		社会的支援を必要としている家庭への対策の充実					
評価 指標	○子育てをする環境についての現状 「ひとり親家庭及び障害がある児童 への支援が充実していると感じる」 割合 (%)	H20年度調査		目標 (H26年度)	H25年度調査		※評価指標 による評価
		就学前児童 29.4 就学児童 33.0	就学前児童 50.0 就学児童 50.0		就学前児童 42.2 就学児童 37.9	就学前○ 就学 △	
	○子育てをする環境についての現状 「外国人家庭への子育て支援が充実 していると感じる」割合	就学前児童 32.2 就学児童 36.1		就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 43.1 就学児童 41.9		就学前○ 就学 △
推進施策		事業数	進捗状況	主な事業			
①ひとり親家庭における 子育て及び母親等の 自立への支援		9	A	・児童扶養手当 ・母子家庭等就業支援事業 ・母子家庭等医療費助成事業 ・母子相談事業 など			
②障害がある児童の子 育てへの支援		16	A	・こども発達センターの運営 ・障害者相談支援事業 ・発達障害児への支援 ・障害児保育 ・小中学校における特別支援教育の充実 ・特別児童扶養手当 など			
③外国人家庭における 子育てへの支援		8	B	・外国人相談事業 ・外国語版子育て情報ハンドブック発行 ・プレスクール事業 ・外国人の子どものアフタースクール 事業 など			
総合評価		課題					
B (3.8点)		<p>評価指標において、就学前児童についてはいずれの指標も目標値には達しなかったものの前回調査を10ポイント以上上回る結果となりました。しかし、就学児についてはいずれも微増にとどまっている状況であり、就学児を持つ家庭への支援が特に必要と考えられます。なお、分野別では次のような課題が挙げられます。</p> <p>ひとり親家庭では、ニーズ調査において子育てにおける不安として経済的負担を挙げる割合は、全体に比べてひとり親家庭の母親で見ると約13%高くなっており、ひとり親家庭の自立につながるような総合的な支援が必要である。</p> <p>障害がある児童については、子どもの病気や発達・発育に不安があると答える就学前児童の保護者の割合が依然として3割弱あり、子どもの発達や障害についての切れ目のない相談・支援の充実が必要である。</p> <p>外国人家庭への支援では、これまでの日系定住者への情報提供や相談支援体制は整ってきているが、フィリピン国籍をはじめ、全国的にも増加傾向にあるアジア系諸国など、多国籍化する外国人児童についても対策が必要です。</p>					

施策 4		健康で子育てできる支援の充実			
評価 指標	○子育てをする環境についての現状 「妊娠から出産、育児まで親子への健康 管理が充実していると感じる」割合	H20年度調査 就学前児童 49.3 就学児童 52.2	目標 (H26年度) 就学前児童 60.0 就学児童 60.0	H25年度調査 就学前児童 67.6 就学児童 62.7	※評価指標 による評価 ◎
	○子育てをする環境についての現状 「子どものための医療施設が充実して いると感じる」割合	就学前児童 59.9 就学児童 55.4	就学前児童 70.0 就学児童 70.0	就学前児童 73.4 就学児童 65.4	就学前◎ 就学○
推進施策		事業数	進捗状況	主な事業	
①妊娠・出産・育児の支援		13	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊婦・乳児健康診査</li> <li>・乳幼児家庭全戸訪問事業</li> <li>・養育支援訪問事業</li> <li>・乳幼児健康診査</li> <li>・健診事後教室、事後相談</li> <li>・不妊治療費補助 など</li> </ul>	
②親子の健康づくりの推進		20	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所・保健センターの運営</li> <li>・パパママ教室</li> <li>・離乳食講習会</li> <li>・予防接種の実施</li> <li>・フッ素洗口事業 など</li> </ul>	
③小児医療の充実		4	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日夜間診療体制の充実</li> <li>・こども発達センターの運営</li> <li>・小児慢性特定疾患医療給付 など</li> </ul>	
総合評価		課題			
A (5.8点)		健康事業は全体として順調に進捗しており、就学児について一部評価指標の目標値に届かなかった部分はあるものの、それ以外は目標値を達成しており、これまでの取組による効果と考えられ、今後も継続的な取り組みを実施していくことが大切です。一方で、ニーズ調査では子どもの発達について不安があると答えている保護者の割合が依然として3割弱あり、子どもの発達に不安がある保護者や、遅れのある子どもの支援について、母子保健施策と障害児施策、医療との緊密な連携が課題となっています。			



基本目標3 子育てを社会全体で担う意識と環境づくり

施策1		子育て支援社会づくり			
評価指標	○子どもさんを預かってもらえる現状 「子育てが家族や地域の人に支えられていると感じる」割合(%)	H20年度調査 就学前児童 83.7 就学児童 86.1	目標(H26年度) 就学前児童 87.0 就学児童 90.0	H25年度調査 就学前児童 88.2 就学児童 89.1	※評価指標による評価 就学前◎ 就学△
	○子育てをする環境についての現状 「同世代の子を持つ親同士が交流する場が整っていると感じる」割合(%)	就学前児童 48.0 就学児童 37.4	就学前児童 60.0 就学児童 50.0	就学前児童 45.4 就学児童 32.4	▼
	○子育てに関して不安を感じることの現状 「子育てに関して不安感や負担感を持つ保護者」の割合(%)	就学前児童 92.2 就学児童 90.3	就学前児童 85.0 就学児童 85.0	就学前児童 91.0 就学児童 89.6	△
	○子育てをする環境についての現状 「地域で子育てをする環境が整備されていると感じる」割合(%)	就学前児童 33.4 就学児童 33.8	就学前児童 50.0 就学児童 50.0	就学前児童 40.3 就学児童 32.7	就学前△ 就学▼
推進施策		事業数	進捗状況	主な事業	
①子育てを社会で支える意識の啓発		7	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>はぐみんデーの周知</li> <li>子育て講演会</li> <li>労働条件に関する制度の啓発</li> <li>家庭生活における男女共同参画に関する啓発 など</li> </ul>	
②子育ての仲間づくりのための支援		4	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域子育て支援センター事業</li> <li>ここにこサークル</li> <li>つどいの広場</li> <li>こども未来館子育てプラザの運営</li> </ul>	
③地域で子どもを育てる体制の整備		13	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て支援地域活動事業</li> <li>ファミリー・サポートセンター事業</li> <li>P T A 活動の推進</li> <li>校区市民館のコミュニティセンター機能の強化 など</li> </ul>	
総合評価		課題			
B (3.2点)		<p>評価指標では、目標値を達成したものは1つにとどまり、全体的に目標値に届かず、2つの評価指標では前回の調査結果を下回る結果となりました。各事業の利用状況を見ると利用度が低いものも多く、子育て家庭のニーズに対し実施事業が利用に結びついていないと考えられるため、利用者ニーズの把握と、それに合わせた事業の工夫などが必要です。また、地域での子育て支援の体制整備として、子育て支援団体など市民協働による子育て支援の推進が課題と言えます。</p>			

施策 2		男女がともに子育てできる環境づくり			
評価 指標	○女性が出産後も就労できている現状 「女性が希望通りに出産後も仕事を辞めずに働き続けることが出来ている」割合（％）	H20年度調査 就学前児童 23.7	目標 (H26年度) 就学前児童 35.0	H25年度調査 就学前児童 23.6	※評価指標 による評価 ▼
	○子育てする上で子どもと接する現状 「子どもと一緒に時間を十分に取れると考える保護者」割合（％）	就学前児童 父親31.3 母親70.2 就学児童 父親30.0 母親60.2	就学前児童 父親50.0 母親80.0 就学児童 父親50.0 母親70.0	就学前児童 父親24.0 母親60.6 就学児童 父親28.5 母親55.2	▼
	○子育てをする環境についての現状 「子育て支援に積極的な企業が多いと思う」割合（％）	就学前児童 9.0 就学児童 10.9	就学前児童 20.0 就学児童 20.0	就学前児童 15.1 就学児童 12.2	△
推進施策	事業数	進捗状況	主な事業		
①仕事と子育ての両立支援	6	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・両立支援を充実させるための各種制度の周知</li> <li>・仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進</li> <li>・企業・労働者・行政による三者懇談会の実施 など</li> </ul>		
②家庭生活における男女共同参画の推進	1	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活における男女共同参画に関する意識啓発</li> </ul>		
③企業等による子育て支援の推進	5	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働条件に関する制度の啓発</li> <li>・子育て家庭優待事業</li> <li>・豊橋市ファミリーフレンドリー店舗認定制度の設立 など</li> </ul>		
総合評価	課題				
B (2.7点)	<p>子育て応援プラン後期計画では、前期計画には無かった新たな視点として「仕事と子育ての調和の実現」と「子育て支援の社会的基盤の拡充」を車の両輪と考え、子育て支援、男女共同参画、雇用・労働環境改善を担当する各部署での取組を実施してきました。また、国においても平成22年6月に育児・介護休業法が改正されましたが、評価指標は前回のニーズ調査の結果を下回る厳しい結果となりました。経済情勢の変化による雇用環境の悪化の影響なども考えられますが、社会全体での子育て支援を推進するためには、市の関係部署との横の連携はもちろん、県の関係部署や企業とも連携し、一体的に仕事と子育ての両立支援に取り組む必要があります。</p>				

# 5 計画の体系

